

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2001年10月25日発行



# 露宿

第15号

## Rojuku

定価500円

表紙写真	高根和明	
文中写真	岡田知子	
わが故郷西新井滅ぶ	富士森和行	2
宿なしの散歩道	中津川あゆみ	3
朝太郎の箱船	鈴木克彦 (挿絵も)	5
雑草のように生きよう!	谷口 悟	9
自衛隊後方支援に課題	K I	
私の願ひ 思ひ	田代 猛	10
新宿やさぐれ恋のまち	弓削鴻介	11
川柳など	小一	12
民衆の目	昼来狂二	13
アツちゃん 他	名無しの権平の皆さん	15
無題	橋 安純	17
俳句	名無しの権平さん	
土の匂いと収穫祭	風来坊	18
未蓮華・老・寿・句・三度笠!!	鈴木・城頭土	19
歌集マルキ船	望月大成	21
五行詩	近松雅之	23
まんじゅうとお酒	只野酔払	25
挿絵「ブラックアウト」	タートル	26
湊町より	高橋美香	29
東京路上ふらり散歩	笠井和明	
	岡田知子	30
おきなわ旅日記	恩田美代子	35
読者のページ		36
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸	37
編集後記		38

一わが故郷、西新井滅ぶ一八首

富士森和行

女系おんならが震災も戦災も護り来りし昭和の家いま全く亡ぶふるさと

わが七十余の誕生の眼に吾れより先に「故郷の廢家」凝視みつむる

野ぼたんのしるき紫紺の夕あり漂ふ秋に救われむとす

アメリカも歌舞伎町もテロと云ふ評価にあけくれ今世紀途惑とまどふ

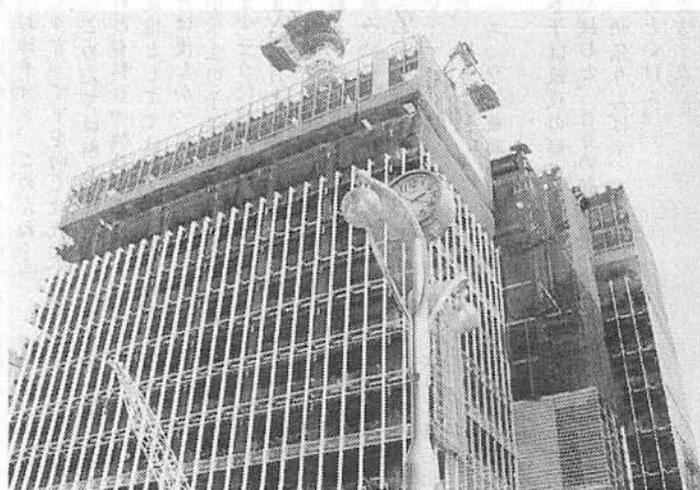
新らしき戦争と云ふ根底に貧民らの救ひを想ふ秋天高し

地域開発に身売りせしわが故郷西新井の町われを見捨てり

或るひと夜宵宮の囃子たつ中に町の顔役テロ攻撃す

なにもかも幣履へいりの如く魂を剥離せし来し世の空の秋

(8・15、敬老の日、自宅にて)



# 宿無しの散歩道

時の記憶

中津川あゆみ



春子は政代と一緒に、隅田川に向って歩いてきた。春子と政代の時は隣どうしなのだが、行動する時はいつも別々である。とはいえ決して仲が悪い訳ではない。ホームレスを遣っている、毎日が行動であり、行動こそが命を支えていると言っても過言ではないのだ。衣類を得るにも食にありつくにも、自分自身の足で歩かなければ、誰も持って来てはくれない。その中で、何故二人が別々に行動するのか、それには二つの理由がある。一つは、二人で歩くと捨得物に遭遇する確率が半分減ってしまう事であり、もう一つは楽しみが無くなってしまいう事である。

政代は九ツ年上の春子を「姉さん」と呼び、春子はそんな政代の事を本当の妹の様に可愛いがっている。そんな二人の楽しみは、上野駅横のダンボールの罫へ帰ってからの一日の出来事を焼酎を飲みながらお互いに話す事である。何も毎日変った事がある訳ではない、いつも同じ様な事しか話題に無いが、それでも誰も信じる者の居ない二人にとっては（自分の話を真剣に聞いてくれる者が一人居る）それだけで十分であり、それだけで幸せに感じるのであった。

「お姉ちゃん」  
先を歩いてきた政代が振り返りながら春子を見た。

「何、どがんとネ」

春子は、振り返った時の政代の瞳が何故か淋しそうだっただけで少し気になった。昨日の晩二人で飲んだ時もいつもの明るさが政代にはみられなかったのである。政代はどんな事でも春子に話したし、春子も信用されていると自信を持っていた。

「政代ちゃん、どがんとネ？ あんた昨日から少しおかしかヨ」

政代に肩を合わせるように速く歩きながら春子は言った。

「ううん、何でもなかヨ」

そう言った途端、政代は又大声で笑い出した。

「あんた、本当にどぎやんとしたネ？」

「だって、私、お姉ちゃんの九州弁がだんだん移って来

たみたい」

政代はそう言って更に大声で笑ったが、その声は決して面白くて笑っているのではなかった。その事は春子にはよく解った。

「政代ちゃん、何ンがあったと？ 私にも言えん事ネ？」

春子は政代の肩に手を置いて足を止めた。

「お姉ちゃん、ごめんね」

そう言って下を向く政代に、

「ごめんでは解らんとヨ、ハッキリ言わんネ、それとも私じゃ駄目なんネ」

友達としてではなく、本当の姉妹のように春子の声は優しくかった。

小学生の子供が悪戯を咎められた時のように、気まずそうに政代は顔を上げた。

まだ七月というのに陽射しは厳しく、それからやって来る八月のことを思うと、うんざりする程である。政代は何を決信したのか、乾いた喉に唾を飲み込むと、話し始めた。

「お姉ちゃん、私ネ、就職：就職するかも知れない：」政代は、一言一言押し出すように話し出した。

「エッ？ 就職決ったと？ 良かったじゃなかネ」

春子は政代の頬をまるで赤子ののように両手で柔かく挟むと、自分の顔の前へ持って来た。

「頑張りんばネ、あんたなら出来るけん、頑張りんとけんヨ」

と言った。

「まだ決った訳じゃないのヨ」

政代は就職する事によって春子と別れる事が辛かったのだ。何より、今まで自分を大切にしてくれた春子への裏切りのように思えて仕方がなかつ

たのである。

「政代ちゃん、あんた、そがん事は考えちゃったとネ？馬鹿じゃなかと？私ん事なんか気にせんでよかとヨ。自分の為、自分の幸せば考えんといかんヨ。分ったネ」

春子は嬉しかった。本当に嬉しいと思った。これから夏が来るのではなく、政代にとつて春が来るのだと、心から喜んだ。

政代は心の内を告げた事で気が楽になったのか、いつもの明るい顔に戻っていた。

「お姉ちゃん、今日は何処へ行くの？」

「私はネ、隅田川の特攻の常さんの所へ行って、又焼酎飲みながらお話しを聞かせて貰うつもりだ。ところであんた、就職先はどがんとこネ？まさか私に言えんごたるいやらしか処じゃなやろネ？」

「まさか、そんな処じゃないヨ、心配しないでヨ：私ネ、お姉ちゃんに内緒にしてたけど、一週間程前から職安に行つて仕事探してたの。そしたら昨日いい所が有つたのヨ」

政代は得意そうに話しを続けた。

「食堂の調理補助の仕事なのヨ、私ネ、これでも料理得意なのヨ、死んだ子供や主人も、いつも美味しいって言ってくれたのヨ」

ここまで話した時、突然政代は口を閉じた。自分の口から「死んだ子供と主人」という言葉が出た事に彼女自身驚いているようである。春子にとつても、政代が家庭を持つていたなど聞いた事などなかった。春子が政代について知っているのは、政代が長野県で生れた事、年は二十七才である事。この二ツだけである。

ホームレスは淋しいもので、決して自分の事は他人には明さないものである。勿論、保

身の為もあるが、自分を語ることで、過去を思い出したくないのである。

「政代ちゃん、あんた履歴書はどうするとネ」

春子は二人の間の悪さを打ち消すように政代に聞いた。

「大丈夫、昨日の夜書いたから。それにネ、その店は学歴も経験も不問って書いてあったの、履歴書なんて少しぐらいいいかげんでもいいのヨ。『問題は本人の違ふ気だ』って職安のおじさんも言つたもん」

少し汚れたジーパンと、ブルーのストライプの入った半袖姿の政代は、背負つた赤いナップザックをポンと叩いた。若いって事はいい事だ。

上野駅から浅草通りを二十分程行くと、国際通りの交差点に出る。春子はそこで政代と別れた。政代は国際取りを南へ行き、蔵前三丁目に有るといふ食堂へ向つた。春子は逆に国際通りを北に向い、雷門通りを東へ隅田川へ出るつもりである。春子は、別れる時政代が『サヨウナラ』と言つた、その言葉が気になつてた。いつもはそうは言わない。「じゃあネ」とか「夜ネ」とか言つて別れるのが常であった。なのに今日は『サヨウナラ』と言つて手を振つたのである。

政代と知り合つてまだ八ヶ月程しか経つていない。去年の十二月に上野のアメ横で寒そうに震えながら座り込んでいた政代を見つけ、ウドンを一杯食べさせてやつたのが、政代との最初の出会ひであった。その時、政代は財布の中に六十円しか持つていなかった。それを知つた時「それでは駄目だ、これでは私と同じに成つてしまふ」と春子は思つた。

それからというもの、ホームレスの先輩として、春子は政代に対し、自分の知り得る事の全て

を教えて来た。

世間が思うほどホームレスは甘くはない。自身自身が食べて行くのが精一杯なのに、人様の面倒など見れるものではない。しかし、春子は「なんとかならないものか」と思つた。自分が諦めた何かを、自分が捨ててしまつた物を……

浅草寺の大きな提灯の前を通過して、少し行くと、地下鉄浅草駅がある。この駅の正式名称は「浅草雷門地下鉄ビル」といい、昭和四年に建てられたものだ。地下には食堂街があり、今でも人気を集めている。昔はこのビルの頭に、トンガリ帽子の尖塔が有つたらしいが、今は無い。

春子は、浅草寺へ来ると、いつも手を合せるが、お賽銭を入れる事は決してない。何故なら、「お金が欲しい」と頼むのに、お金を入れる馬鹿はいない、と思つているからだ。何も個人的に神仏を信じている訳ではない。近くに寺が有れば手を合せる、教会が有れば「アーメン」と言つて十字を切るのがある。一見、不謹慎のように思えるだろうが、自分の願ひを聞いてもらう為には、誠に以て効率的で（信じる者は救われる）の世界である。

親音通りを過ぎて、東武鉄道の前の横断歩道を渡ると、隅田川が見える。「東京にもこんな所があるのか」と言いたくなる位の川である。

春のうららの 隅田川

と、歌いたくなる様な風情は今が無い。ただ汚れた水がどんよりと流れているだけだ。何故こんなに立派な建物が必要なのか？と思いたくなるような、墨田区役所のビルディングが目の前に聳え立っている。そのビルとアサヒビールの（ウンチ）を右に見ながら隅田公園の堤防沿いを左に一キロ程行くと、『桜橋』が有る。

# 朝太郎の箱船

鈴木克彦作



## 二、朝太郎がやってくる巻

二、ヨイヨイ船のオロカ人の章

二十日もたつとどうやら嵐はおさまったが成仏できぬ善霊の恨みだらうかゲンコツ波はガンガン船縁たたき 冷たい雨はなおも降りつづき 波の高さは五メートル空模様も毎日うとうしいが 朝太郎これまたうかぬ顔 大波大揺れの船橋に座して

力が足りずに救うことのできなかった 老人や小供のことばかりを考えている 小供はやがて下らぬ大人とやらになって 狂いもせず年老いてはムダに死んでゆく それでも老人と小供こそはすばらしい この世のアクマ学を 老人や小供 赤子や白痴に学びし朝太郎 ヒンミン窟の小供の笑顔を想うて咽び泣く アメリカスラムの黒人達も死に絶えたらう Hな朝太郎セクシーな黒人パン助姿が忘れぬ インド不可触賤民達はどうしたか 人並の生活も知らず虐げられて年老いて 毛虫の如く嫌われて汚なく死んでゆく 嘘のつけないチグウやチホウ 心正しきグドンにロドンにチドン ドアホーも 体も動かせず死んだであらう障害児 コインロッカーで死を迎えたであらう赤ん坊 人が良いため騙されるバカや白痴や精薄児 異次元世界に生きつづけたクレイジー 捨て子に父なし子に 花一匁に売られた少

女人一倍優しさと義侠心に生きながら

獄の間に繋がれた暴力団は今どこだ

マテンローヤ白鷺城にエツフル塔 ホワイ

トハウスや皇居王城おしくはないか

アルメニア人もホッテントットもユダヤ人

カリブーを追って暮したイヌエツトも

アシ笛吹いて 葦の船畑にトマトを植えて

た山高帽子のインデオも船にはいない

若い頃 世界中をふらついた朝太郎 彼ら

少数民族の情けを思い出す

ああいたましやナサケなや 恨み骨ズイの

神々様の大嵐 全共闘よろしく原水

爆反対 神の大殺戮大暴力大反対

朝太郎泣きながらも己の総てを抛って 生

きのびたホンの少しひと握りの貴重な

人々のため働きぬこうと悲願をタテタ

嵐が去って十万トンのギャベツジ船 持ち

主に似てあつちこつちに故障が起る た

くさんの大嵐による被害者も出る

かなりの浸入カナリの大揺れに ガス爆発

も起こさず沈みもしないのは奇跡

これも乗客の行いがよろしくないからだ

役立たずの者も必死にやればやれるもの

何んとか修理もやり終えた

もつとも全部をシュールした日にや 新し

い船ができるほどの老ボレ船骨ボレ船

それではオロカ船のヨイヨイ乗客どうなっ

た 幸い死人は六名とキワメテ少なかった

たが 三週間もの船室暮し大嵐グラシの

中に痛めつけられて

六つの大部屋に各々何百人も押し込められ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

て イヤな臭いとムサ苦しさと船酔いと  
ふあん恐れ悲しみにうちヒシガレテ 口か  
ら吐き上げ尻から吹き出ししツヅケテ  
やと少しは体が楽になった頃にはもう  
不平と不満と腹へりだけは芽生えてる

船にはいろんな乗客そろってゴザル 赤白  
黄色に黒い顔 考えすぎの青い顔 殴ら  
れすぎたか赤青紫色のマダラ面

人のツラしてないものも数えて二千五百弱  
悪くて下らぬ日本人は一番多くて二十人  
そのうち㊤部落出身者は五百人余り 多く

は船員や狂人の世話係となつて働いてい  
るが 盲人が狂人の手を引いて道を案内  
するようになり 盲人コロべば狂人みなコケル

あとの五百人は多国籍人 オットいけな  
い 国籍などはなくなつた  
民族人種に部族 上下の差別や優位もなく

なつた 万国クレージー徳政令でシャッ  
キンも林もなくなつた  
反歌一題

君が世は断えて久しくなりぬれど  
痴狂人水に流れてなお健在なり (注)

乗客は共通語に日本語みたいな下らぬもの  
を使つてはいるが ヤガチ淘汰汰され純正  
奇人語になるだろう

そんな人達が甲板下の大部屋と三つの女子  
小供 老人室の小部屋に分かれ ギュー  
ギュー詰めで暮らすこととなる

ほかに食堂娯楽室 食料増産室に職員室が  
あり その下の階には動物室 エピカニ

ねずみのフカ場飼育シツ その下の層が  
言わずと知れた満タンうんち糞所 実  
はこれが船の大半を占めている大荷物  
船橋側には病院室と幹部シツ 朝太郎やら  
航海士達は当然いろんなモンダイ 業務  
や司令に研究計画に忙しいのだが

貧民街で無償で彼らの世話をする教会員や  
団体が ワリに合わないソシリを受ける  
ように 何かの時には非難攻撃の標にな  
るだろう

乗客の年齢構成は 老人小供が二百足らず  
男女青年は九百人 あとの大半は千四百  
人はイヤミ根性の中年層 人生のハンブ  
ン以上を無為徒食徒労で食いツブシ

これからは船のモノまで食い潰す気構えだ  
文句がなければ老若レディは四百足らず  
それでも㊤幹部がやととりソロエた分

美しく狂つた女性はやとといればよい  
白痴美人がモットいればよい  
何しろこれから小供をつくり 狂人類繁栄

のためユースフルなアニマルだ 高野聖  
と朝太郎乗客に娘を見せるナと言うよう  
に 競争率六倍強の確率で流血騒ぎもカ  
クジツだ その真剣さには東大受験生も

カナワナイともあれも 三輩の浮かばれ  
ぬクレージーの英霊 古の先輩たちの執  
念は成就した みんなの苦勞はムクワレ

タのだから成仏する  
見事に地下スイソク狂人達の乱痴氣騒ぎは  
再生 狂人ルネッサンス時代の華麗な開  
化だ それも中最高最低層の勃興だ

悪子は桑田にクワを入れ 人のために計り

て悪ならざるか 友と交わりて不忠ナラ  
ザルカ 不注意にも良いことを教えはし  
なかつたかと三省するやつばかり  
日暮れて道遠しのヨボヨボ頭に長い白髪ヒ  
キズツテ 目をしばたかせそれでもまだ  
ナオ学ぶぞと息巻く老体学者

虎穴に入ったが虎子を得ず 頭をナデテ痺  
った無欲者も ノーモア雨降りと嘆く  
バカなくせに欲張りで 趣味は下劣でイ  
バルくせで助平で臆病な者までも

ノア一族の劣等な人種ならイザ知らず 世  
界中から集まつたクレージーの純粹種  
待ちに待つた我が時代 悲願は達成さ  
れよう 成就されよう 我らの関がシン

にやつてきたのだ  
見よ！ これが 選ばれた本物奇人グータ  
ラ人 グダグダと九つの部屋にアシカか  
アザラシカ 釣られたカツオのようにケ  
ッコロがつている人に

大あくびするカバ大王に ネットイル人から  
何か盗もうとするコンコン狐の娘 イタ  
チの如く走り回る操狂人 太くてタクマ  
シイお尻のシマウマ女 目ザメテしっか  
りガンバツテ！

見よこれが 選ばれてきた標本人間 カン  
ブリア紀から中生代 新生代 人類滅亡  
に至るまで 地球生物発展史上のひょう  
じゅん化石がバラバラに散つている

明けても暮れてもアンモナイトみたいに丸  
くなつてるのやら 暴れるゴルゴサウル  
ス マイラサウラの如くに小供を世話す  
る女に 触れれば電気を起こすナマズ女

ほつべたをふくらませて怒るトラブグ男  
あるまじきかなアルマジロ ハゲタカ爺は  
夜な夜な歩き回っているし 偉そうな皇  
居ベンギン クネクネくねるクサリ蛇男  
人類の祖先キツネザルみたいなネズミ男  
ネアンデルタール人みたいにカミつくや  
つ 直立猿人らしく朝から晩までただ夕  
ちどうしの猛人

そんな人達のホウフや感想など ナマの声  
をお聞きしよう ではひとつ！

「大時計が真夜中に告げるとオレは狂ってし  
まった

狂いたくて狂うものでもないのに  
狂ってことが解決する訳でもないのに

狂わなければ見えぬ世界を見たいと思っ  
た 訳でもないのに」

親も子もほっぽって ひとり船に乗ったワ  
ガママ者の読める！

「親を死なせてからの 赤の他人の親孝行  
小供を沈めてからの 船の小供の小煩惱  
デタラメ生活でさなくなつての大ハリキ  
リ人々のお世話が楽しいこのごろだ」

それでは毛布を被って震えているお方なん  
かどうですか 誰かにイジメられました

んか

「まんじゅうが金玉を食うから恐ろしいのだ  
おお！何んとむごたらしい

見よ！

まんじゅうはパクハクと  
はじっこから根元まで

金玉を食っているではないか  
恐ろしい！

何んなのだあれば

齒もない異様な毛の生えた  
紫色の口をうごめかすものは

こんなものに食われてはならぬ  
俺は逃げようとするのだが

ああ！ 何と恐ろしい  
ただで逃がしてはくれない

食いちぎり骨までしゃぶつたあげくに  
骨だけをブイと吐き捨ててしまふのだ」

そうでしたか怖いすね ありがとうござ  
いました それでは老フウロ者の方どうぞ

「横浜のフウロ者狩りに九死に一生を得たワ  
タシ

ワタシら仲間を叩き殺した中学生は い  
ま どこにどうして死んでおるものやら

思えば代つてやりたかつた お前達が殺  
そうとした人々が

船にこぞりて笑い狂い 怒り狂う こん  
な姿や 人々を救おうと努力する④の

カンブの生きざまを見て 学んで欲し  
かつた

その感想を 中学生日記に書いて欲しか  
つた」

「生まれた所は下町長屋  
スイジせんたくみなキョードー

キョードーといれにキョードー生活  
集団就職に結婚まで玉川の集団見合い

働いた所がノーニョーキョードー組合  
空しく生まれ 空しく死んで

死ねばこれみなキョードー墓地  
船じゃ丸窓からキョードー作業で

雨降る海にザブンと水葬される」

ではくずれの④のカンブさんにもおひとつ  
おことばを！

「くずれのくずれの大きくずれ  
人格くずれに脳ミソも体も腐って崩れた  
者ばかり

台所では コックくずれがネズミの料理  
病院には 氣違いを診すぎたために感染  
した精神病医師

これが誤診で人を殺せば 坊主くずれは  
何んとか葬式しよる

そのあと葬儀屋くずれが何とかしよる  
これがマルキカンブの船内仕事です」

朝は六時に旧陸軍の起床ラッパのトテチテ  
ター 元気に体操して顔を洗つてトテチ

テタツタ 七時半だよクレイジー 大食  
堂に食事の用意ができました

船の乗客これに和し「クレイジーは可哀想  
だねー また起きて狂うのかようーじゃ

なかつた 起きろよ起きろみな起きろ  
起きなきや朝太郎にしかれるー」

「朝です メシです クレイジーです 大飯  
釜を叩く音に目が醒めて 暗く不快な

船の中 みんなでみんなでメシ食つて  
ゲップと放屁たのしやキチガイ食堂

(注)

きのうの酔いなんのその われ先にとド  
タバタ走つて転がって 鼻血を飛ばし口

アワふいて 馬小屋が犬小屋よりもケタ  
タマシイー狂人の鯨飯馬食堂風景

乗客ノタマワク

「狂人はパンのみに生きるに非ず 神のこと

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ばは食えはしない アクマのウンチは固くてにがくてカメヤしない 人は食ったためにクソをひって生きるのだ」

「ケバ食える カエネバかえぬ エビカニもカエル春になりにけるかも」 恐らく こういった意味でしょう 食べれば食べられる 食べられないから食べない エビカニも カエル つまり食べられると蛙と解るにかけて 蛙が孵化する春になったなあ

「立てば狂人 座れば愚鈍 歩く姿はオカマ尻 食べる姿はかみつき怪獣(注)」

④のキャンプ 船乗客に一日の食事メニュー やら 生活の仕方を毎日毎日教え込む 朝はうすガユ 乾パン もやしのスープ 昼は豆とキノコの煮物に エビカニ天丼 三時のオヤツは干イモ番茶 夜は玄米パ

ンにヌカミン汁と鼠のフライ ユーウツなら食べましょう タイクツなら飲みましょう やがて芽がデル元気でる

七重八重 バカはいれども君達から 食事をぬけば取り柄 ひとつだになきむ 悲しき(注)

何も残さんよりは命だけでも残そうと心を鬼にして エビカニ料理を食べませう

食うために生き 生きるためにクソをする 一口為度修一切悪 二口為断一切善 三口為度諸狂人 皆共成悪魔道 食後の退屈しのぎには 放っている犬や

猫やヒヨッコを追いかけ回せ 手前の馬面チンポをなでよ マンポもなでよ そんなことよりは 船底に下りて働くがよい モヤシ作りやエビカニ飼育 家畜のお世話 ケンカするより掃除して消毒をし 上げ足とるよりノミとりネズミとり

あとはおフロに映画 イサカイにスモートリ」

でも朝太郎達そんなに狂っちゃいない 病人を見れば治すが報酬と思うヤブ医者に 奇人変人痴人にアクマの御姿を見るという看護人

世のため狂人のために尿そうとする奇特な危篤人 まして世の中のいろんな病気をシヨイ込んだ 下層社会にノミ・ゴキブリと共に住む 世にも哀れな崩れ者達を心配して 老狂老痴相哀れむというべきか アクマの愛は海より深いのか

悪は善よりい出で善よりも悪しというべきか 苦海に沈める者達を救おうとする精神は勝手デマカセ見せかけ以上に強い 善人こそが善人で 善人こそが悪人なのか 健康ホケン 失業ホケン 国民年金はおろか 友人知人・社会・家庭・生活にも恵まれなかった 生活ホゴまで取り上げられた人々を救おうと願かけた朝太郎 大工も航海士も医者も一応乗せてある “狂人絶対主義 大航海時代”の幕明けに 治ることのない重症痴人を抱え

痴狂人の海原探訪と冒険生活はまだ始まったばかりだ

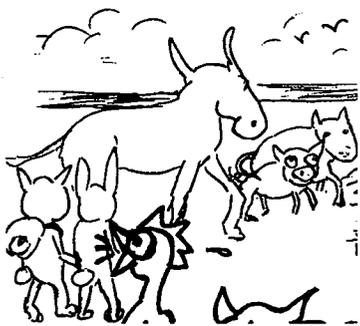
反歌一題 「大海原渡る狂人カジをとり 行の方も知れたクレジニアへの旅かな (注)」

やがて痴呆船にも夜がシノビよる 就床ラッパが鳴り渡る 十時半だよクレージー

また寝て狂うがよい 反歌二題 「クソ船の殺風景な大ベヤに 毛布片シキ二千人も寝ん(注)」

「夕さればクソ船床に泣く狂人は 今宵は泣かずいねにけらしも(注)」

(注)は、引用、書き替えなどしたもので、必要があれば(著作権などの問題)、これを正式に届ける用意があります。



# 雑草のように

## 生きよう！

### 谷口悟

社会情勢（ニュース）に疎いので断片的にしか知識を得ることができないのが今の私の最大の悩みです。ですから現在の我が国の時流がどのようになっていっているのか、しっかりと把握できていません。しかし送付されて来るパンフレットを読んでいると、日本という国が危ない方向に進み出しているということが分ります。

今の小泉人氣は、これまでのどの首相よりも支持率が高いと報道されているようですが、それも長引く不況を打開してくれる「救世主」が欲しい、という国民の願望を巧みに利用しているだけのことです。その背景には、ファシズムの思想が隠されているのですが、愚かな国民は、それを見抜けないだけなのです。気がついた時は、もうどうにもならない状態に追いこまれていたということになります。外交政策は、日米安保体制の見直しなど似ての外というところで相変わらずの対米従属で「地位協定」の前に、為す術なし、という体たらくです。その為、沖縄で頻発している米兵による事件にも及び腰にならざるを得ないのです。こんな事件が頻発するのは、米軍の基地が沖縄に増集しているからであり、米軍（米

国）が、我が国に対して、植民地宗主国意識を強く抱いていることが原因であるのは確かなことなのです。

その解決方法は、勿論「基地の全面撤去」しかありません。このまま米兵の横暴を傍若無人ぶりを手を拱いて見ていることは、屈辱でさえあります。しかも、その基地の維持費などは、我が国が負担している、というのですから呆れてしまいます。どこまでコケにされたら気が済むのか、と腹立たしくなります。そんな無駄金を、そして、世界でも1・2位を争うといわれる膨大な防衛費を削って福祉にまわせば、路上生活者の仲間も殆どが救済されるはずですよ。

今の小泉が、この日本を良くしてくれ、と期待していたらとんでもない目にあわされることを、まだ愚かな国民は気がつかないのです。「痛みをともしなう改革」などと、スロガンを掲げていますが、この「痛み」というのは結局、国民にとつての痛み、ということを知っておかないと後悔することになります。そして、この「改革」を断行した場合、今まで以上に、路上生活の仲間が増えることになる、ということも忘れてならないことです。時代背景は、仲間たちの生活に、ますます厳しい局面を押しつけようとしています。でも負けるわけにはいきません。これからも「雑草のような」たくましさを持って、生きてゆかねばなりません。お互いに、ふまれても、ふまれても強く生きぬいていきましよう！！

# 自衛隊後方支援に課題

## K1

同時多発テロへの報復攻撃に向けて、米国が日本に非公式ながら「目に見える参加」を要請してきた。自衛隊による後方支援などがどこまで可能かが検討されている。

■周辺事態なのか？

「今度、湾岸戦争のような事態になったら、CNNの映像に日の丸が映るようにしたい」。ある防衛庁幹部はいう。米国などの行動域近くに何らかの形で自衛隊を派遣して、世界に示したい。99年1月の国会で当時の小淵恵三首相は「現実問題として地球の裏側で起こることは想定されない」と述べた。政府も今のところ適用には消極的だが防衛庁関係者「中東は含まないと断言したわけではない」。

■支援は新法で

米軍支援の新法案はどうか。今回の支援策も海上自衛隊の艦艇による米軍や多国籍軍の補給物資の輸送や傷病兵の治療における自衛隊医務官の現地派遣などが有力視されている。同じ議論が繰り返されることは確実だ。

■役に立つか

装備面だけを考えれば、可能なこともあるが海自ではいま艦船による警戒監視活動も案の一つに浮かんでいるが、日本防衛と関係ないアラビア海への展開には否定的な声が多い。海自幹部も「作戦を実施している時、武力行使も何もできない艦船が行き交うのはじやまでしかない」。

# 私の願ひ

思ひ

田代猛

窓外に台風十五号の風雨がたたいてゐます。この風雨の如く現実の社会は厳しく奈落の底の様子に落ち込んでゐます。今日この頃の日々です。失業率五割完全失業者三百五十万上として又小泉内閣の聖域なき構造改革により百万人増の失業者が増大すると伝えられてゐます。東芝、日立、松下、ソニー、NTT等々IT関連企業にも不況の波が押し寄せて来てリストラの波は除々に広つてゐます。不良債権の処理により流通建設等々倒産、一体日本の未来の展望はどうなるのでせうか。自殺者年三万、今日も又、中央線で電車が自殺者で止まったとニュースで伝えられてゐます。都内、大田区の中小企業の数多くの経営者の皆さん言語に絶する苦しみ、日本の産業構造の九割を支えて来た中小企業経営者と働く人達の不安、都内の底辺で苦しんでゐる人達（人はそれをホームレスと表現するが私はそ

の言葉に異義があり用ひたくない）一人人弱とも云はれてゐます。これから又この厳しき現実の中で増大する事は必至情勢と考えられます、小泉さんよ。「キヤッチボール」、写真集、そんなマスコミ向きのノンキな現実じゃないでせう。人々の痛みが理解されておられるのでせうか。昨日「もやい」の集會に久し振りに赴きました。華害に関する医師の話との事で興味が有り参りました。私はその時自ら身を以つて体験した日本の医療行政の末端の矛盾を語りました。去る日、東京地裁で都立広尾病院の院長の医療ミス判決がありました。私も三回傍聴に参りましたが判決文で裁判長が貴方は医師としてより一人の人間として自らの倫理観をもつて自らを律し生き行く事が大切だと語られてゐました。日本の医師の倫理観の欠如そのものに発する華害、医療ミス、医の技術も大事ですが最も大事で大切な事は人間としての自らを律し倫理観を人一倍抱く事が人の生命を支える医師としての最大の責務である事を私の具体的な体験で語りました。十二才の少女に対する中学教師の手錠転落事件、外務官僚による水増し詐欺事件、余りにも数多く見られる倫理観欠如による事件アキレ果ててしまひます。私は現在、介護保険要介護二の認定により週三日自宅にてヘルパーさんの介護を受けてゐます。もう六ヶ月近くなりませんが、ヘルパーさんの苦勞、苦しみを耳で聞き現実に直視する時介護保険開始以来一年有る

そのヒズミが末端に表れてゐます。ヘルパーさんの低賃金で生活が出来なくなり辞めて行く人達が数多く見られます。政府は失業者の救済に福祉介護に転換すると声を大にしてゐる。末端の介護の現実を知つてゐるのだらうかと声を大にして云いたい。末端のヘルパーさんの善意の力で支えられてゐる現実の末端の介護の姿を直視せよと叫びたい。今は善意の人々のヘルパーさんと手を結んでその改善に取りくんではゐます。小さな小さな力ですがキツト、キツト善意の人々の声を力を結実させようと思つてゐます。

露宿も発刊三年になりますか、早いものです。新宿公園の芝生で発刊近くの日々語り合つた事がなつかしく思ひ起こします。露宿14号に「もやい」の広告が掲載されてゐました「心と心をつなぎます」私の心にジントこみあげるものがありました。この文が皆様の眼に入る頃は秋深し紅葉の季節です。人それぞれ生き方、考え方があつてせう。でも自分を大切に大事に共に手を取り合つて仲間と共に生きてませう。

「金ではなく鉄として」(中坊公平 言録)

平成13年9月10日

風雨 励ましき日 私の願ひと思ひこめて記す。

新宿やさぐれ

恋のまち

(一)  
 生れ故郷が、恋しくなつて、  
 やつて来ました、歌舞伎町、  
 心安らぐ、憩の広場、  
 寂しがり屋の、溜まり場、  
 ねえさん寄りなよ、話をしよう、  
 枯れ朶に、鳥のとまりけり、秋の暮へ  
 幼な馴染に、良く似ているぜ、  
 新宿やさぐれ、恋のまち。

弓削鴻介

(二)

おんな袖ひく、馱裏あたり、  
 潤む灯の、百人町、  
 泣いて笑つて、その日を生さる、  
 それがおんなの、生きる道、  
 兄さん遊ぼう、流し目おくる、  
 枯れ朶に、鳥のとまりけり、秋の暮へ  
 流れ流れて、行き着く先は、  
 おんなの海峡、ネオンまち。

(三)

肩を並べて、新宿御苑、  
 やつて来ました、気晴しに、  
 四季の花々、芝生の広場、  
 寂しがり屋の、溜まり場所、  
 一日のんびり、転た寝しよう、  
 枯れ朶に、鳥のとまりけり、秋の暮へ  
 悪い奴ほど、眠ると言うが、  
 新宿やさぐれ、恋のまち。

露宿第14号ありがとおこ  
ございました

皆様仲間の皆さん元気で居る事と想いますが身体だけは大切にして下さい俺れで出来ないが何にか出来事があつたら云って下さいおねがいます

来月に入ればなにか俺にも出来る事があります用を考へて居ます笠井さん仲間の皆にあえる事も出来る事をいのつております

仲間の皆さん身体だけは気おつけて下さい俺も頑張って一日も早やく退院する事にはげみ皆様といっしょに行どお共にしたいと思います 一日も早やく会える日

おたのしみに頑張ります  
よろしくおねがいます  
では さよおなら元気で居て下さい来月に入れば外出も出来ると思いますので元気で居て下さい

意地張りの馬鹿野郎

小一より

# 川柳など



朝もやも

心静やかに  
はれお まつ

酒断てば

のどもとおらぬ  
酒こい、

意地っ張り

流れ流され  
北の島

雲も流れ

浅しう流すか  
夏の夕暮

たった数秒の四季もある

六十年も前の

消えない今もある

心の中では

時間は流れない

母はいつでも若いと思ひ

どなりついたり笑つて

ごまかす母はそれで満足

子供は子供のまま

愛を積重ねていく

生きるとは

心の中にこそあると

俺は思ふ

花火と人生

朝顔 朝つゆあびて  
かきねごし

夕顔

夕映に 咲いて明日なき

命かな

白い花夕顔悲しき花でも  
生きる強さは知つて居る

どの花見ても美つくないが夕顔

だけは一夜だけの花 朝くれれば

散る花だと思ふと そつと両手

かこつてやりたい気持になる

俺れは夕顔見つめて涙ぐむ

想いにかられる事がある それは

兄と思つた人が 一夜かざり

で散つたからだ 特攻だから

というけれど生きてるかざりは

わすれる事は出来ないだろお

だから夕顔見るたび思い出す

散つたとて明日という日がある

今日も新しい花がさくだろお

今夜も夢見て 頑張ろお

# 民衆の目

01・1・20

## 昼来狂二



三流週刊誌的

〈マスメディア〉〈マスコミ〉

どの記事を見ても

三流週刊誌の様なものだ!!

何をやってるんだ・えっ!

この輩〈ブルジョアジ〉どもは

自らの使用人・〈マスメディア〉

自分等の言う通りに動く

〈マスコミ〉

資本家どもは

自分等の懐さえ

膨らましさえすればいい・と

世界じゅうをうろつき回り・・・

餌を喰ぎつける!!

餌の匂いを喰ぎつけると・手下

〈マスメディア〉を連れて

・・・〈政治屋〉どもは

高級車に乗り込んで会議場・え

世界の首脳どもは打ち揃い

餌の分け前話し合う・・・

マスコミはそのことを・・・

その報道するだけ・・・!

自分等もその一員なのが

見え見えだ!!

涙・満載の目

一人・びとり

一つ・びとつ

《ヨハネ黙示録 6―5

・・・視よ黒き馬〈帝国主義者〉これに

乗れる者、手に秤をもてり》

もう一度云おう・・・

帝国主義国には

絶対わたせない!!・と

アフリカ人は

自分たちの権利を守る!

アフリカは自らの“大地”なのだ!

利益は白人〈帝国主義〉には

わたしはしない!!

・・・そう・主張しているだけだ!

欧・米・日本・の〈繁栄〉は

アフリカ人・アフリカからの

資源〈ダイヤモンド・金〉を

奪い取り・盗み去る事だった!!

アフリカ人は自分たちの権利

自分たちの“地”にある資源を

主張しているだけなのに・・・

今・アフリカからの

強奪は出来はしない・・・

ヨハネ第一の手紙 2―11

《・・・その兄弟を憎むものは

暗黒〈ダイヤモンド・金〉にあり

暗きなかを歩みて己が往くところを知

らず

暗黒〈ダイヤモンド〉がその眼を

眩まし〈金・ダイヤモンド〉たればな

り》

先進国〈国家〉の

三流週刊誌・〈新聞〉

この輩どもの〈報道〉は

偽りと・欺瞞にみちていて・

アフリカ人は

自分の“家”を守る権利を

主張しているだけなのだ!!

何故・・・

白人・及びエセ白人||日本人

〈帝国主義〉の言う事を聞かない

アフリカ人だと・・・

アフリカ人を悪く云うのだ

アフリカはしっかり腕をくんで

今・歩んでいるんだ!!

〈帝国主義〉はいらない!・と

本音を云ってみろ! 〈帝国主義〉!!

てめえ等自分の利権

得ることできないから

ジンバブエを悪者にして・・・

お前達〈帝国主義者〉は

ヨダレを流すほど

アフリカの資源〈ダイヤモンド・

金をほしがり〉

まるでミルクほしがっている

〈あかご〉みたいにくずる

いや・もっと悪質で

人のものをほしがり・奪い取る

白人〈帝国主義〉

〈日本人も・同類だ!〉|| マスコミも!

この強盗どもに注意しろ!

隙を見せるなアフリカ・・・!!

奴ら〈帝国主義〉のこんたんは

アフリカに・マスコミ使って

〈反目〉を投げ込むんだ!!

こいつら〈ダイヤモンド・金〉など

ほしいから・何でもやらかすぞ!

世界の〈帝国主義〉・〈マスメディア〉

大嘘つき・!の〈マスメディア〉

注意しろ!アフリカ

隙を見せるな!アフリカ

白人・エセ白人|| 〈帝国主義〉

この輩の微笑みに

ごまかされるな!

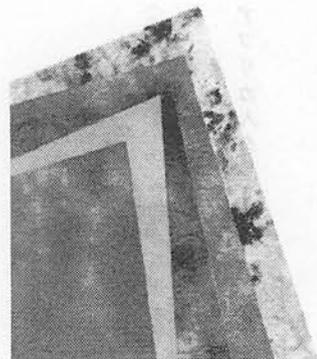
アフリカ!!!

(アフリカをアジアとおきかえてもいい)

アツちゃん

アツちゃんかー沖縄から山谷に  
来て20年経ったっと思ふ

アツちゃんはたまに1週間に2度  
いっ仕事に行つて毎日酒を  
呑み酔っぱらふ。たぐひれてキズ  
だらけの山谷人生。この山谷から  
出ようとしても出られぬ。どうして  
社会人としての能力がなつかさだ!!



実現不可能な事。=中を反視実。の利、夢を言ふ。  
是れのない時代に、夢造り、夢を以て  
視察の悲愴を歴史として乗り越え、更にものがある。

が、いかに、悲愴の極限に達した現在、  
奇を端と、不思議な言葉湯葉を言ふ者も現れた。

'01.9.

### パンドラの夢

パンドラの夢は実現できるのか  
できるのか？、しかし自分  
宗教心があれば夢は実現  
できると思う、いや実現でき  
ると信じている、

### 不思議な言葉

この世に不思議な言葉  
があるというのを誰かが  
わかっていると思いたい  
この言葉とは逆の言葉で  
あるか？ 虚とか、真  
言葉である、寄場、用語で  
ある、

8/1, 9.

足があるか？ 歩けたそれは  
当然だと ~~も~~ えよれる。しかし  
~~は~~ 自分の友達・秋彦さんは  
足があるのに歩くことと、  
できる ~~も~~ なるそうだと  
4/1

10/1, 9



炎暑極まりじっと待つ刻とき  
汗かいて生きている

暑さのあまり冬眠する夏

半切キャベツは芯がらくさせる

西日中汗かきだして待つ日暮れにわか

日が暮れて息かきかえし便所いく

蓄熱する石置のうえ野宿である

やと汗かかなくなった夜

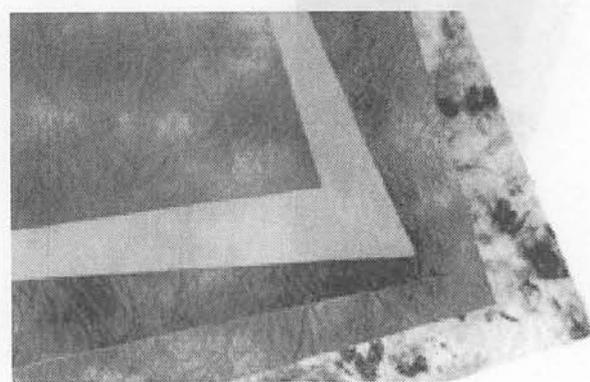
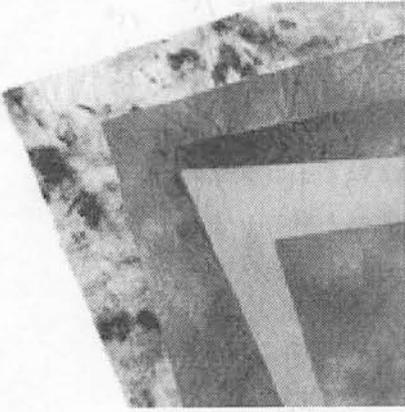
すいか食べない夏は終りか

朝晩すおしくなつてやと脳みそ回りだす

2001年夏橋

純純

8月2日



シヤボン玉 蒸気おもつても

すぐ消える

朝もやも 心静かに暮れをまろ

秋の風 あつがいざんしよ 吹き流す

たひからす なかればなかくれ しろくた

# 土の匂いと収穫祭

## 風来坊

“しんしんと 暮れゆく畑で 打つ太鼓  
相吉村に 我れ意気 感ず”

過日私達 もやいのグループは他のグループと共に 九月一日 池袋東口公園に集結し、それよりグループ如に車に搭乗し新潟へと向った。さまざま景色と山合ひの川の流れを見ながら 闊越自動車道をまるで旅行に行くように 私の胸は波打った。都会では見られぬ 葉山子が 色とりどりの着物を着て見事に出揃った黄金色の穂の間合間に立ち並び 私達を出向えてくれたるがごとく微笑んでいた。日光のいろは坂を思い出させる景色を横に見て 十二峠で下車し昼食を取る、峠から見おろす山々、目の前に二、三輪咲き乱れる桔梗の紫の花片を手に取り、しらず知らずの内に なぜか知らず幸福感を 覚え 食事の甘さが身にしみて 悩みもなにもかもふっとんだ気分が爽快であった。

十二峠を後にして目的地に着く、どこをむいても畑のど真中である。先発隊の仲間が出向えてくれ 早速 私達は各自作業衣に着替え、先輩や支援者の ジャガ芋を振る手順を聞き終えた後 一人 一人が畑の中にと 思い思いに散乱してゆく。そ

の後姿は、彼等は何か新しい生き甲斐を求めているように好感を味う。私とて同じ思っていた。知らず知らず畑の中に這入り、仲間と混ってジャガ芋を振る。幼き頃、父に教はり乍ら芋を掘出した経験をうつつらと覚えてはいるものの芋掘りは始めてである。雑草の中にジャガ芋の幹だけが残っている。先ず雑草を取り除いてから、上の中に埋まっているジャガ芋を掘り出すのであるが、雑草の一つ一つが今までの悩みや不安を取り除く感触と、土の匂ひが、今の我が身の幸福感であると共に その匂ひの下に芋が： 掘り出した芋一つ一つが光明と新鮮さを私は味ひつ、この匂ひこそ 支援者達が私に今まで与えてくれた匂ひだ。その匂ひを胸に ジャガ芋を 私に例え感謝と報恩の気持ちで掘り出していった。人生には七転八倒とあるが 私には転ぶばかりで起きる事は困難であった。この氣に起きし上らなくては二度とチャンスは訪れ来ない。

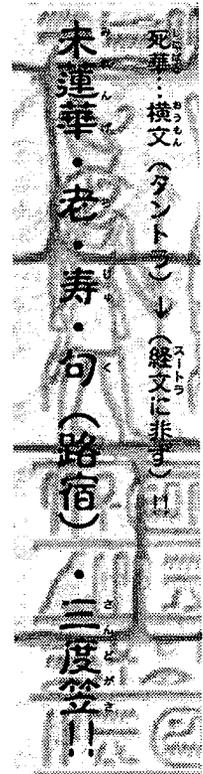
ジャガ芋を振るだけでは、私も人生も掘り出さなくてはならないと痛感する。汗と感触で味った作業も終り、夕陽迫る畑の中にテントを張り、シートを敷き、多数の仲間、支援者達が席を定め これから始まる収穫祭を待つばかりである。テントの中では今宵の料理が始まっている。シートの中の片隅に舞台らしい物が目に入ると共に、その傍に和太鼓が備なえてある。その間仲間同志のこやかな笑ひが流れ、始めて達った 支援者の方や 他の施設又生活保護を受けた達の思ひ思ひの交友が 私も

ある外人の女性と二、三人で話し合っている内 各自ビールで乾杯の合図と共に今日一日の疲れを舞台の上では、地元有志の方のギター演奏が流れて来た。聞き惚れる仲間達は楽しんで笑顔を淡い月の光にくっきりと浮かんでいた。演奏が終り和太鼓が勇々しく鳴り響く。この太鼓の音がギター演奏の感触をそのまま、尚更 私達をなごませてくれた。そのまま、地方有志の方々と一緒に打つ太鼓、これこそが真の交友の礎でもある。私は太鼓の音を聞き乍ら遠い故郷 新宿夏祭り私達に太鼓を覚えてくれた中門さんを出す。目を遣って太鼓の音を聞き惚れている内に中門さんの笑顔と共に「勇ちゃん頑張つて」と云う声が 脳から離れなかつた。新宿連絡会の支援者達一人一人が私に良き思い出を残して頂いた。感謝の一念で一杯だ。収穫祭も終り、各自は旧公民館で一ト夜を明かし、帰途に着く。

途中、青空と緑がまぶしい露天風呂、竜ヶ窪温泉に立ち寄り、木々と岩に抱かれ乍ら、心も体も癒して、昨日通った風景を再度味わい乍ら 私が無気であるならもう一度来年も訪れたい。車は高速に差しかる この思い出失うことなく。

最後にこの機会を与えてくれた もやいの仲間の方に 誌上にてお礼をのべたい。有難たう、本当に有難たう。

何は失せても 思い出だけは 永遠に去る事はない。この思い出の一端を心の中に深く保存し明日に希望を得ながら、筆を置く。



◇琥・琅・璃・観音・和尚 鈴木・城頭土◇

◇カンパンを集めて造りし無縁塚：

路上死亡者・霊団を慰みたる送り盆の宵。

(八月十六日)

◇『靖園』に祀らるゝ英霊等―羨ましと』

敗戦・直前・直後の野宿・死亡者軍団―語る：暑き眞夏の夢の中。

◇出戻りの路上生活者に、

やさしい代々木谷園の大銀杏の樹の周囲の円形―ベンチ。

◇還暦(満30才)を過ぎたる年配の路上生活者で、

生活保護・拒否されし人達―殆ど―コロリ観音を願望す。

(＊苦痛なき瞬間―完全・即身・成仏!!)

◇アイス・コーヒーを飲めぬ

―猛暑―千鳥足―アル中の様!! (コーヒー・中毒!!)

◇酒の身変りに熱爛の尿を飲む―厳寒の悪夢!!

(尿療法―難病治療に効果あると云う!!)

有名なガンジ―聖者もその信奉者だったと云う)

◇人生は『花火に似たり』と悟る死亡寸前の人柱・代行者

(餓死目前の路上生活者)。

◇心に愛の家なき有宿者より心に愛の家を持つ路宿者の方が  
聖性を得る確率―高し。

◇体力も、物、金―なき―御老体のポランテアさんには、

精神的な靈的な分野の使命が待ち望まれる!!

◇路上生活者の〈存在理由〉は、全人類の心の中に〈アガベ〉(無限の愛)

と云う意識の種を蒔く事にある。

◇ホーム・フル

(ホーム・レスに非ず、ホーム・レスは乞食同様、差別用語である)

―ああ、ホーム・フル―ホーム・フル

◇芭蕉の頃は、紙子で野宿―

現在は、ダンボールや新聞紙に代替り。

◇石も土も、すべての物と云う物が食べ物に：見える幻覚?を体験して始め

て

路上生活者の大・ヴェテラン(老練の士)と云われる!!

◇アカシヤの雨に打たれて死にし女―道連れ男を代々木に求む。

◇ガード・マンに追われし軒先―ホテル・宿泊者―何処にベッド―有り哉?

◇雨―夜―電話ボックス―宿となる!!

◇悪臭の公衆トイレも、雨―露―暴風―台風の避難所と、なり得る。

◇梨―喰えば、鐘は無用だ―無縁墓地!!

◇荒寺や畦―這い出る―音も無く。

◇無縁塚―梨―が―供物と定め有り。

◇轟音に無言歌―経文―痺しぐれ。

◇無一文に、なりて悟るか―無限の愛!!

◇人殺し!!自分―殺さぬ―弱味―知れ!!

◇他人―殺さぬ自殺者は一粒の真砂の善徳となり―許さるゝ!!

◇宝篋零主―地獄―極楽―紙一重!!

◇裏飯屋―越善に米―出しや―呪い―無し。

◇シャボン玉―消えて命の秋(命の空白!!御陀仏寸前)―を知る。



◇通りやんせ!!地獄―極楽―迷い道!!  
◇三途 (之) 川―渡らぬ者は仏陀のみ!!

◇生き地獄―体験すれば―死に強し。

◇猛暑でも地獄の鬼は―いと―涼し。

◇耳鳴りは、罵詈雑言の防音装置!!

◇キリストも、神も、仏も―地獄釜!!

◇吹き出しの時だけ笑顔―終われば―仏頂面!!

◇ハンパー―グー路宿の人の―命―綱!!

◇超人気!!過ぎてしまえば―ピザの冷凍!!

(冷めたピザ―どころの騎ぎではない!!)

◇蚊に喰われ、眠れぬ夜に奇歌、妙句出来る!!

◇極楽は、地獄の狂熱温泉の底の水の中花!!

◇現人神!!敗戦直後は良犬神!!

◇老いぬれば無条件―降伏の―恐さ―知る!! (ジー)

(\*霊的にも無条件降伏となると大超問題!!)

◇美味そうに、見えても油断は禁物なり―市販の弁当―  
味も心もドツチラケ!!

◇無一物!!〇の焦点―浮ぶ素因となる!!

◇蚊に喰われ我身の肉体の無防備の―点と線を知る!!

◇官軍 (明治軍隊) の為の靖国神社―敗軍 (幕府軍) の不満

―いまだに尾を曳く!! (参拝拒否の背後は何と旧幕府の亡霊軍団!!)

◇野宿・流浪の俳人の凶頭火の名前拝借のラーメン屋―渋谷で大評判!!

◇凶頭火―死して名を残し、ラーメン屋の―麩の種田となる。

(飯の種に非ず!!)

(\*種田凶頭火は、山口県出身・事業失敗し、禅僧になった放浪俳人!!  
旅、句、酒がすべての人。師匠が萩原井泉水。)



**秋深し、越冬近し仲間達**  
**今年も寒さに震える21世紀の冬**  
**越年越冬闘争へのカンパ大募集中!**  
**(現金、米、米券、冬物衣類など)**

新宿連絡会NEWSVOL.25号 好評発売中! (B5版15P 100円)  
 東京路上生活メールマガジン  
 HOMELESS NEWSも好評刊行中!  
 お求めは手紙、FAX、メールにて。  
 メールマガジンは連絡会HPに今すぐアクセス!

**新宿連絡会**

111-0021東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働福祉会館4階  
 ☎ 03-3876-7073/090-3818-3450 FAX 03-3876-7073  
 ホームページ <http://www.tokyohomeless.com>  
 メール [shinjuku@tokyohomeless.com](mailto:shinjuku@tokyohomeless.com)

<カンパ金送り先>  
 郵便振替口座: 00170-1-723682「新宿連絡会」

# 歌集 マルキ舟

- 草稿PART2 順不同 -

## 望月大成

人知らず 我が行く先はムシヨならず

⑦病棟

格子戸の中

いつにても心の準備 鉄格子

⑦病舎は

ムシヨよりはまし

いつかくる神のお迎え 鉄格子

余命幾ばく

天国の門

ひよっとして処置入院で鉄格子

馬はピンボー

医者代がなし

キ印となりて苦闘の五十年

バカサ加減の

己見つめて

病識の有ると無しとは他人舟

人格二つ

舟は一つで

気が狂れば明日の狂者は他人舟

大成ならず

しかも大成

気が狂るか ぼけるが先か 五分と五分

明日のさだめは

神のみぞ知る

馬捨川 水干上れば芦ノ原

ラチで囲んで

囚われの馬

上九出てマルキ一匹 無一文

暮し細々

年金の笠

マルキ舟 馬捨山で小休止

旅の衣の

ほころびを縫い

気が狂ればドックもならず マルキ舟

灯笼流し

馬捨の川

願わくばアオイサン行き ふる里の

脳病院で

終着の駅

キ印の呼び名と知らず 東京っ子

観光名所

アオイサンとて

キ印の阿波の名所はアオイサン

行きたくもあり

行きたくもなし

気が狂ればキぞろ ↓ アオイサン

阿波の名所の

馬捨の山

ドキチガイ 呼ばわりさるはまだしもの

①の呼び名

アオイサンとは

喧嘩せば兄貴のセリフ ドキチガイ

①蔑視は

カルトフアミリも

天才の兄貴は老いてたゞの人

二十才の狂気

とうに忘れて

意地悪がそつと陰口 アオイサン

ホンモノ①

ついぞ知らずに

ドキチガイ 狂ってえ狂って又狂って

兄貴のセリフ

今ぞ身に沁む

病識を持たぬキ印 御前様

バカさ加減の

己知らねば

人をバカ こき下ろすのはやすけれど

己がバカさに

打つ手あらぬは

天才の星なる兄は牧師様

弟は①

馬暮しして

キ印は鉄格子とて下手すれば

ついの行く先

青屋根の下

ムシヨ入りも①病舎も一つ屋根

生き身の死者は

牢獄の中

死に場所は尊師と同じ塀の中

縄で吊るすも

狂って死ぬのも

常識外 山でぞろ ↓ 馬暮し

キ印ならぬ

キ印の内

どこにてもキ印なると気づかれず

①天国

山は最高

大成はクル ↓ パーか さにあらず

キの字に丸は

サリンまく人

マルキ舟 はるかに見ゆるアオイサン

道のり陰し

古い馬一匹

はた見にはマンガと見えて馬社会

①病舎は

人生のコマ

ワルなればムシヨに入れば前科つき

ワルサせずとも

①札つき

障害者 闘わざれば希望なし

山日勞で

再生の道

鬼とてもお腹すかせばたゞの馬

戦士は飢えて

赤旗の下

世の中はエロスの廢園 (キ)より

さらなる(キ)

狂者ごろ

(キ)とて山は予備軍 ホンモノは

竜宮城に

馬の大成

竜宮は舟にあらねど酔いどれ船

飲んでふら

マルキ舟して

デモ行けば若きナースに胸おどる

キ印病院

赤旗の波

奇声上げキ印一匹 デモの列

(キ)病舎を

ぐるり囲んで

キ印と知りて絶望 ナース死ぬ

白い天使は

初恋の人

見くびるな サリンばかりが能ならず

ハジキ持たせば

百中の腕

難破船 二度あることは三度ある

学園、上九

ついは山谷で

若い先は終生ドヤか 鉄格子

どうせキ印

どちらでもよし

憎き奴 殺さずじまい 怨念が

積り積って

凶状の馬

次々と奇想天外 マルキ舟

サツがはら

何起るとて

# 五行詩

近松 雅之

信 頼

心を叩きつけ

歩きつかれて

交わすたわ言

それでも信ずる

私と私の人生を

交 差

駐車場に

懐かしい車

「もしも」はある？

扉を開ければ

懐かしい背中

殉 教

愚かな思想に

身を委ね

愚かな目的に

果てることほど

愚かなことはない

虐

少しずつ

中毒してる

老陰を自覚

もうどうにでもなれ

銀杏雨

銀杏拾いが

一段落したら

冬に備えよう

黄色い雨が

舞う木の下で

神 隠し

迷い込んで

見失っても

真実の愛は

どんな魔術も

解いてしまおう

遠 雷

月の下で光る

壺音の箱妻

このまま一緒に

閑を行くから

力尽きるまで

夕 立

トタンに当たると

夕立がうるさくて

耳をふさいだ

溶けあつてしまえ

空も意識も永遠も

光 臨

割れる

空の雲たち

差し込め光

迷路にはまった

足光を照らせ

霜 降

時に風に

冬の匂い

あの海へ

帰りたいくなる

晩秋の頃

## 意見広告

### 塩川財務大臣への直訴状 !!

不況克服、国家財政再建、失業者救済、  
ホームレス“〇”、の実現に向けて、  
寄付国債（1000円、2000円、3000円、  
5000円、10,000円単位）の大量発行、  
販売をすべきだ !!

（私達、低所得者でも協力可能な  
最もよい方法であると思う）

五洲四郎

2007年（平成13）、9月9日（日）

# まじゅうと

## お酒

### 只野酔松

平成13年9月23日、日曜日、朝5時5分に目が醒めた。ロダンは決って5時5分に目が醒める。そして、今日一日の始まりを感じるのだ。「今日は9月23日、所沢に10時集合、中着田、日和田山ハイキング、夜のAA（\*1）は、国立公民館、その後はひばりヶ丘本因坊へ行って、碁を打って。そして、今日はハイキングにどんな仲間が来られるのかなあ。楽しみだなあ。」と、思いながらテレビをONにした。

東京12チャンネルで将棋対局。桐山九段対行方七段戦。2三步打ちが決め手となって、行方七段の勝ち。

6時から同チャンネルで囲碁対局。趙治勲二十五世本因坊対王銘宛本因坊戦。両者持ち味十分の碁で、治勲の地と銘宛の大模様、治勲あざやかに大石を仕止めて中押勝ち。

ロダンの囲碁は？。当然アマだから言える、決って言っている言葉がある。地に辛くて厚い。常識的に考えれば、地に辛い碁が厚い碁になるわけではないのだけれど……。そこがロダンの良さなのだ。いつも自信を持っている。そして、そんな囲碁を打ちたいと思っている。アマの碁打ちの夢、不可能を可能にする夢を追い求める事を囲碁の中で表現する特権は、プロには持てない世界なのだ。何をやって、どう打とうと、負けたっていいのだ。生活が、お金が、名誉だなんてどうでもいいのだ。好きな世界を囲碁に表現できればロダンは幸せを感じるのだ。

30代のころが一番強かっただろうか。県代表にはほど遠かったが、相当の打ち手なのだ。今はAA（\*1）の中で、仲間が囲碁に関心を持ってほしいと切に希望している。

囲碁番組が終ってすぐにテレビと冷蔵庫の電源を切る。ドンキホーテで買った、200g入り、みやぎひとめぼれ100%ごはんをチンするためだ。電子レンジを使うと他の電気は一切使うことができない。すぐにヒューズが飛んでしまう。部屋の灯りは20Wの電球で、それでさえ同時には使えない。とにかく不便なのだが、不平、不満など言っただけはいられない。只今、失業中なのだ。夜、電子レンジを使う時は電気を消してチンをしている。このごはんは六ヶ500円、一ヶ83円ちょっとで買ってくる。地下鉄大江戸線東新宿駅を降りて歌舞伎町二丁目方面出口を出て、ほぼ正面に赤札堂がある。なんでも100円で売っている。玉子が100円、肉、魚、野菜、くだもの、食器、包丁、調味料等、なんでも100円で売っている。毎日の食事の材料はここで買っている。一人で生活しているから無駄が出ない。それでも、自炊を始めたころは、買い過ぎてしまうことが多くて、野菜等半分を捨てるハメになる事が多かった。自炊生活も三ヶ月も経つと、もうそんな事はない。ロダンは決してバカではないのだ。なんたって考える人なのだから……。

ハイキングにはお弁当を持って行くことに決めていて、昨日の夜、前述の赤札堂から50mほど山手線方面へ行くとドンキホーテがあり、丁度、西新宿教会の道路をはさんで正面あたりになるが、そこで買った明星の赤飯が100円、消費税を入れて、たったの105円のをチンしておいたバターロール（パン）を一緒に入れて、おかずは野菜と肉、魚、そして最近時間配分が上手になってうまくできる玉子焼、紺碧のなすの漬物を五ヶ、赤いチェリートマト中玉を三ヶ色あい良く詰め込んで、「わあーきれい！」と言える仕上がりとなってでき上がり。

所沢へはどれ位時間がかかるのか考えてみた。百人町2丁目のアパートから東新宿駅へ歩いて15分。都庁前まで3分。先が丘行きに乗り替えて練馬へ、これが20分位とすると、待ち時間を入れて45分から50分、練馬から所沢まで西武池袋線で20分から25分、休日運転は急行が少ないから30分みた方が、そうすると1時間15分はかかると考えないと、10時に所沢に着くには8時30分には出発したい。

朝食を済ませて、お弁当ができて、タオルと、それから着替えて、それから……。  
時計を見ると8時だった。少し早いけど仕度をして、昨日は寒くて困ったから、暖かそうにして、身も心も暖かそうにして出掛けることにした。しかし、どんなに工夫をしてみても、ふところ具合だけは寒かった。

部屋を出る時は必ず確認を怠らない。火の元は大丈夫、電気は大丈夫、鍵は大丈夫ということで8時15分に出発した。

二日前は一日中雨だった。昨日は曇っていた。そして寒かった。表に出て空を見上げる。今日は雲ひとつない晴天だ。ヤッター！これもハイヤーパワーだと考えるようにしている。とにかくいい事はハイヤーパワーなのだ。そういうえば、お酒とおサラバしてこの一年半、悪い事などひとつもない。健康な身体には健全なる精神が宿るのだ。風邪ひとつひかないし、鼻血も止った。したがって貧血も治った。お酒を飲まないから肝臓も治った。小さい時からアトピーだった。それすら治ってしまった。ロダンの体にはお酒は青酸カリなのだ。青酸カリなら自殺を考える時、人殺しの時以外は使わないとしたものだ。それで、お酒を飲みたいと思わないでいられるのだ。

東新宿から乗ろうと思っていたのに、足はかかってに新宿駅へ向っていた。休日だから人は少ない。大江戸線新宿駅へ着いたのが8時40分、AA(＊I)に通うようになったころは、とにかくセカセカ歩いていった。最近、と言うと「ゆっくり、でも歩こう」でやっている。

大江戸線練馬駅で西武池袋線に乗り替え、一路所沢へ。普通電車しなく、それで向った。所沢駅9時25分着。飯能行きホームで降りたから、まずはホームを往復した。仲間らしい人はいない。誰れが来るのか聞いていないし、何人来るのかも知らない。東村山駅で待ち合わせをしている組と所沢飯能行きホーム組に別れていることはフェローシップ案に書いてある。喫煙所にいるのが一番いい。9時45分だった。男女の二人がロダンの前を通り過ぎた。ロダンは目が悪く、掛けている眼鏡はおそば用とよきているから3mも離れば人別ができない。今、まさに目の前を通り過ぎ行く二人はロダンが自省館にいたころ、とに



By Fustle

かく熱心にメッセージに来てくれた仲間だ。恐るおそる声を掛けた。「もしかして、新秋津の方では……」と。ステキな女性の方に「そうですが、貴方は。」と言われて、「にしき町グループのロダンです。よろしく。」と言った「○△□×」「A B C D」と自己紹介されて、もうすでに旧知の仲になってしまった。「貴方がロダン、逢えて良かった。」と言われて、すぐに嬉しくなってしまうロダンなのだ。今日のハイキングはキットステキな一日になる予感がしてしまった。やがて次々と仲間が集まってきて、所沢組は全員知っている方ばかりだった。10時17分発飯能行きが来た。東村山組はまだ来てなかったが、集まった5人は出発することにした。高麗駅前が広場になっていることを知っているロダンと同時期に自省館にいたさいわいグループの仲間の二人は当時何度も中着田には行っているから、そして、東村山組には、なんとたつて今回の起案者がいるのだから迷うはずがない。とにかく先に行つていようと言うことになった。飯能で秩父行きに乗り、高麗駅で降りた。アツと驚くタメゴロー。人人ビッチャン、人ビッチャン。かなり広い駅前広場は人の園だった。五人は一齐に「ナンダアーコリヤア」と叫んでいた。男と女の大將軍の塔の立っているあたりをウロウロしていたら、東村山組がやってきた。一緒に電車だったようだ。6人だった。合計11人のステキな仲間が集まった。

さあ、曼珠沙華の咲き乱れる中着田へ行こう。日和田山へ行こう。天気晴ればれ、心晴ればれ、足は軽快に。と思つたのに、あまりにも人が多過ぎて前に進めない。駐車場のおじさんに聞いてみた。「今年最高の人出でしょう」と。人の多さに呆然としていたおじさんは、「うーん、すごい人出だ」と唸っていた。中着田始まって以来の人出だそう。これはロダンが勝手に決めて書いている。

ともかく出発した。頭を下げ始めた稲穂を横切ると、ひとつ、ふたつと咲き始めたコスモス郡に出逢う。秋風に揺られながら一ヶ月後にまた来いよと言っていた。たしか、去年自省館にいた時の中着田は曼珠沙華の花はなく、コスモスの花園だった。かくれんぼもできる背丈のコスモスが秋の陽に輝いていた光景が目の前をよぎる。今日は何と言つても曼珠沙華だ。林間に入るとまさにじゅうたん。深紅のじゅうたんが広がった。

西武鉄道発行のパンフレットには、古代からの歴史が残る高麗郷を抜け、

清流と曼珠沙華の中着田へ向う道とあり、「縄文時代中期の遺跡があることでもわかるように、古代から人が住み着いてきたこの郷は、豊かな自然に恵まれた穏やかな里です。高麗川に沿う田園地帯を横切り、ゆるやかな道を歩き、高麗人ゆかりの古刹を訪ねましょう。秋の中着田には曼珠沙華が咲き乱れ、感動いっぱいハイキングが楽しめます。」と、そして、「中着田に100万本の曼珠沙華が咲きそろう、深紅のじゅうたんのよう広がります。9月中旬下旬が見ごろ」とあり、「高麗川がU字型に大きく蛇行する地形にひらかれた水田で、山の上からながめると丁度中着袋のように見えることから、この名前がついたといわれています。夏には高麗川の川原で川遊びが楽しめます。」とある。

起案者は曲った事が大嫌いな人のようだ。別れ道があると決つて「真直ぐに行こう。」と言う。若いステキな女性メンバーが「私、村山東大和グループのN子です。よろしく。」と言つて来た。ロダンも自己紹介しようと思つていたのに、人の行き来に邪魔されて、タイミングがずれてしまった。しかし、歩いているうちにチャンスはやってくる。新秋津の女性の仲間と三人になった時、「さっき自己紹介できなくて、ボク、にしき町のロダンです。」と言つた。N子さんが「あら、ロダンは貴方ですか。お名前は知っていました。」と言われた。またまたロダンは嬉しくなった。この時点で、今日一日はステキな一日に決つてしまった。ミーティングならば「ステキな今日一日」と言うだろう。

やがて川原に出た。N子さんは靴をぬいでくつ下をぬいで清流に入つてしまった。「ワァー気持ちいい。もう最高。」と言つてはしゃいでいた。素直が青空いっぱい広がり、清流がサラサラと流れて、さわやかな秋風がお昼にしようと言つてきた。

「ワァーきれい。」といつて仕上げた弁当を食べながら、11名が自己紹介をした。北多摩から新秋津2、萩山、さいわい、城西から練馬、南多摩から国分寺、青梅、三鷹、連雀、村山東大和、にしき町の各1名、10グループからの参加だった。

昼食が終つてトイレに行つて驚ろいた。長い長い行列ができていた。女性の方は小一時間もかかるだろう。男でさえ、20分以上も待たされた。中着田は曼珠沙華のじゅうたんはかげり、人のじゅうたんも化していた。み

わたすかぎりの人、ひと、人、そして、ひと、人、ひとなのだ。  
新宿駅の人の波は行く道をふさがれ、途方にくれるものだが、この広い  
中着田が人で埋ってしまっている。ロダンは途方にくれてしまった。声も  
出ない。全くひとごとではない。

今日の仕掛人がようやく言った。「そろそろ日和田山へ行こう。」と。秋  
のお弁当をたらふく食べて満腹のおなかを持ち上げて、やおら出発するこ  
とにした。日和田山は305m、女坂を登り、金刀比羅神社のところで記念写  
真、見わたすかぎりの中着田の秋、右手には富士山が見える、山あいにはヤ  
ッホーの声が飛んで、ステキな今日一日は男坂を軽快な足どりで行り、高  
麗駅へと帰路についた。

一駄足―蔓珠沙華の由来一七〇〇年ころの中着田地方のお酒は味がいま  
ひとつであった。まんじゅうを食べながら飲むとほどよい味になりおいし  
く飲めた。酒のさかなはと言えば、桜の花だが、この地方の秋は深紅のじ  
ゅうたんをしたように咲き乱れる花を愛した。この花作りの名人はアル  
コール依存症者であった。この花を愛し、妻を愛し、そして酒を愛した。  
妻はまんじゅう作りの名人であった。そんなところから、まんじゅうと酒  
が合体して蔓珠沙華となったと言われているー???ー深紅のじゅう  
うたん(\*2)を広げた話であることは言うまでもありません。

(\*1)―AAA―自助グループ。アルコホーリクス、アノニマスの略。  
お酒を飲まないで生きる生き方をミーテングと仲間と共に。  
(\*2)―深紅のじゅうたん―真っ赤なうそ、冗談です。

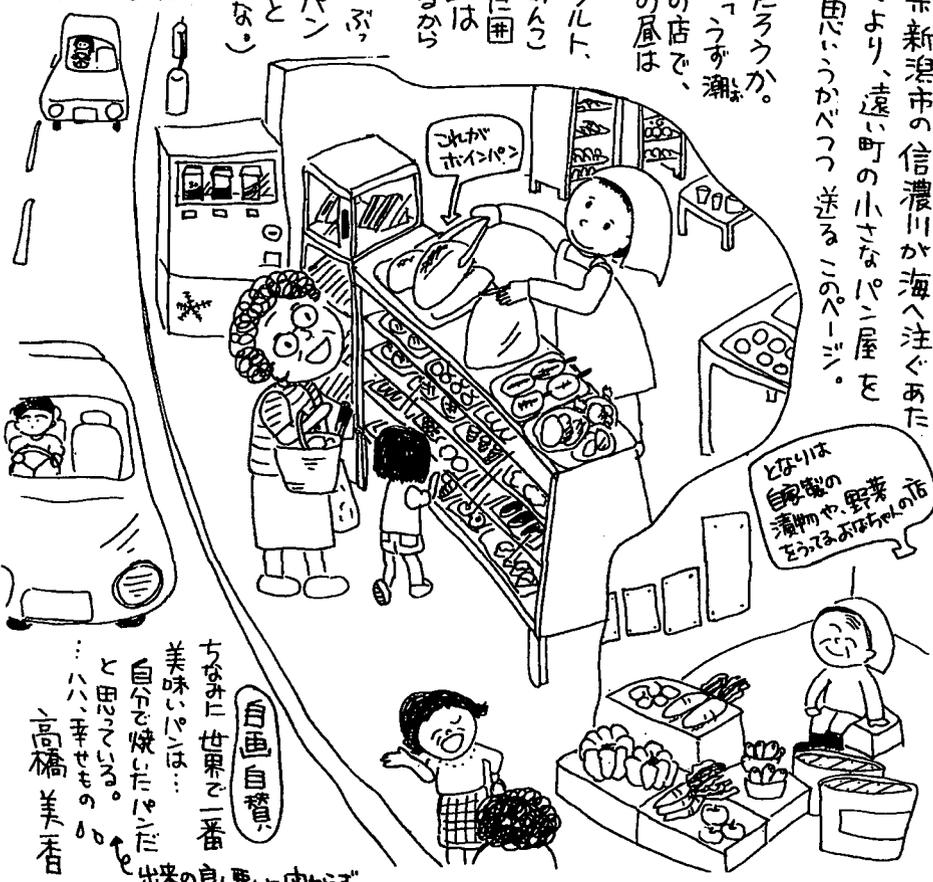
挿絵 「グラックアウト」タートル(寸言 只野酔私)



# みよとまち 湊町よし

新潟県新潟市の信濃川が海へ注ぐあたりに湊町より、遠く町の小さなパン屋を、田代いづかべつ送るのページ。

「ポインちゃんだい」「おみきにん」  
 こんな会話が今日も交わされているだろうか。  
 無類の「パン好き」の私の原点「うず潮ベーカリー」。近所にあつた手作りパンの店で、  
 安く美味い。子供の頃、毎週日曜の日は  
 このパンを「たろふく」食べていた。  
 キョウクリーム、メロンバター、フランクフルト、  
 コーンスナダ、ピーナツホール、それにあんこ  
 吉じりのマンパン、そんなパンたちに囲  
 まれてあたり前の様に「ポインパン」は  
 並んでいた。大きくてふわふわしてるから  
 そんな名前がついたのかしら…。  
 「ポインやてー、ギ、ハハ」と笑う子供。ぶ  
 きらぼうに注文するおじさん。もはやパン  
 の名前以外の何モノでもない「淡々と  
 注文する人。」まあ、これが普通通ですな。  
 …それにしても心憎い名前。  
 ちょっとおしなパン屋ですまして来た  
 だ。難しい名前前のパンたちに囲まれる  
 と時々、「うず潮ベーカリーのポイン  
 パン」のことを誰かに話したい気が  
 して、うずうずしてくるのだ。



「高橋美香」  
 大好きな世界で一番  
 美味しいパンは…  
 自分で焼いたパンだ  
 と田代いづかべつ  
 …ハハ、幸せなの  
 出来の良し悪しに気がす

東京

路上

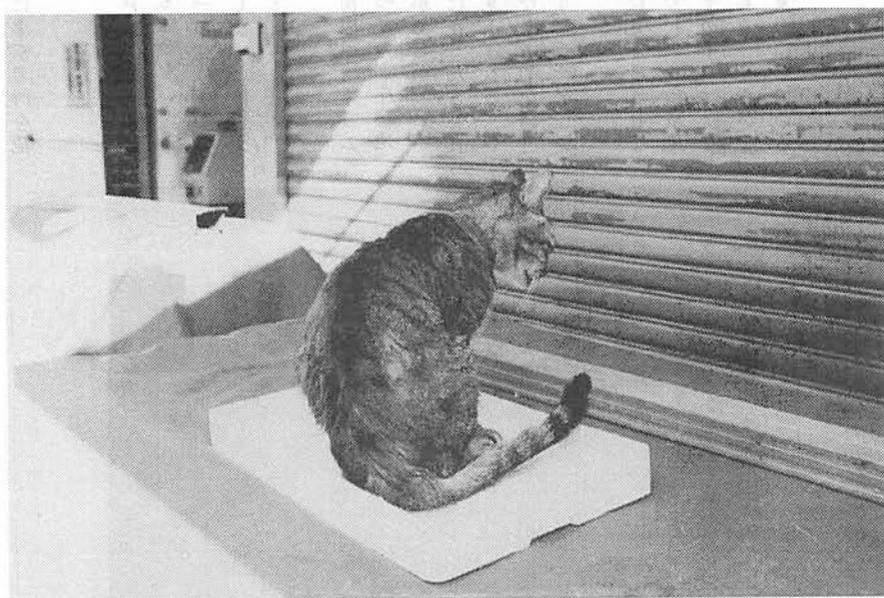
ふらり

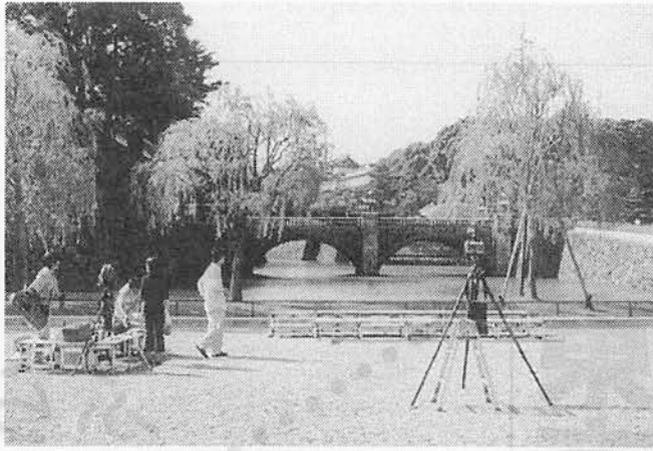
散歩

第15卷

写真・岡田知子  
文・笠井和明

「東京」





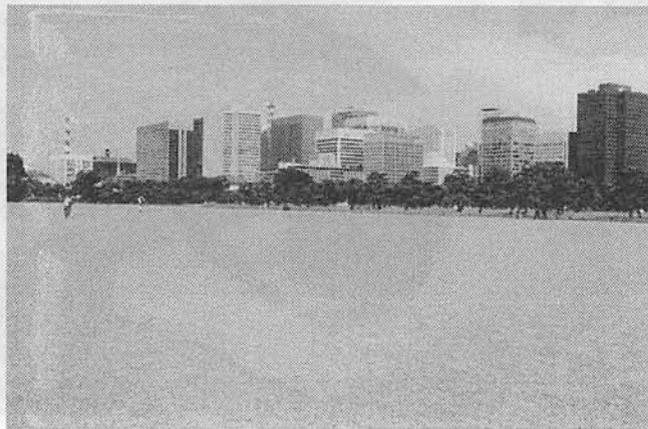
東京と云う場所は東京都の中に何処にあるのか？  
 いわゆる東京は膨張に膨張を重ね、どの街も東京という名称  
 を使いたがるものだから、今や東京はいたる所に東京名所を抱  
 えるおかしな都市になってしまっている。

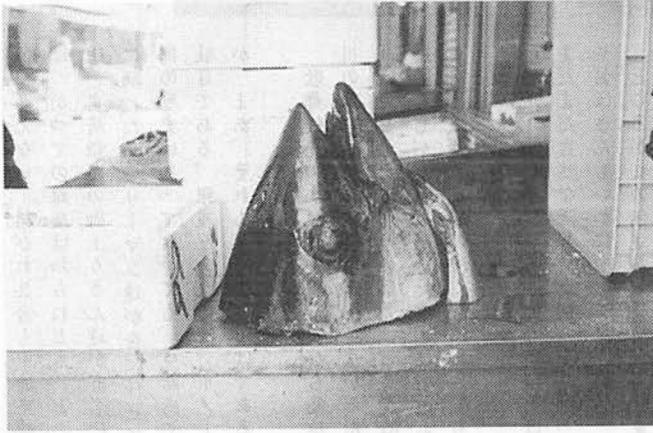
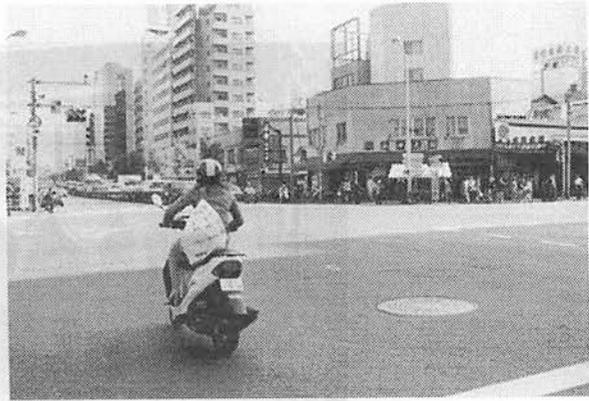
東京を探すとすると、東京駅からかつての江戸城、維新後は  
 天皇が移りすんだ東の都たる皇居を見ずに何も語れないだろ  
 う。が、千代田区皇居一帯は一般の客を拒む唯一の聖域。この  
 東京を語る上で実に貴重な文化遺産を一般公開しないと、文  
 明国としては実に恥ずかしいと思うのであるが…。

澄んだ秋の空のとある日、有楽町駅で降り、国際フォーラム  
 の中をふらふらしながら東京駅へと向かう。かつての都庁跡地。  
 都庁職員の中では今でも旧都庁舎を懐かしむ声があるが、いか  
 にもお役所と云った風な旧都庁舎はやはりここに在った方が良  
 かったのではと、超高層威圧な新都庁舎を毎日見上げると、や  
 はりそう思うのである。都市再開発という安易な経済的な誘惑  
 は、一つひとつと街を壊している。有楽町しかり、西新宿しか  
 り。

かつての国労会館の辺りに新築中の高層ビルに見下ろされな  
 がら、東京駅丸の内側を往く。お馴染みの赤いレンガの威風  
 堂々たる駅舎が続く。大正から昭和初期にかけての平べったく  
 空間的に余裕のある建物は今の世にない貧乏である。せちがな  
 い世は上へ上へと建物が延びる。そんなものを象徴にしている  
 と、不幸にもテロ攻撃の対象となる。

この国も「報復」と云う名の三流西部劇的な戦争に積極的に  
 加担している今日、東京、なかならず日本の最重要施設「皇居」





はさぞ戒厳体制かと思いきや、和田倉門を渡った内堀通りの掘りの脇に警備員が一人いるだけ。皇居外苑の芝生にはおっちゃん達が気持ち良さそに日向ぼっこ。もっとも為政者が考える重要施設は永田町や霞ヶ関の施設や米軍基地だけなのか。「皇室」が行なってきた歴史的な「罪悪」を自覚していないこの国らしさ。

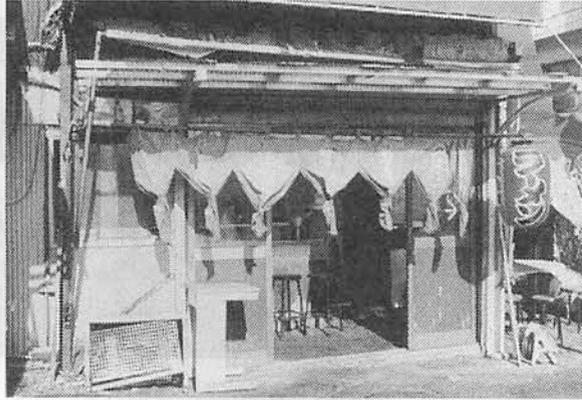
皇居外苑から二重橋前広場へと向かう。寸分も違わず剪定された松の木が、寸分も違わず刈り込まれた芝生の上に整然並ぶ。流石にこの辺りでは芝生の上に寝転ぶ人の姿は人の子一人いない。白い玉石の広場には観光客の姿がちらりほらり。遠くに見える丸の内の不揃いなビル街。この光景を異様な空間と感じる者はあまりいないのだろうか？土地の怨念、執念、と云うものがどこにも感じられない。東京のどまん中に通ずるこの場所は、そんな平淡な場所であったのだろうか？

皇居正門の橋の向こうには直立不動な「近衛兵」。二重橋前にはレトロな交番の中に見つきの悪いお巡りさん、その向こうには記念写真屋さん。観光旅行の一群がガイドさんを先頭にぞろぞろ歩く。ゆったりとした景色が、威圧的な空気と同居している。

巨大な、かつ歪んだパワーを持つ「東京」はやはり、ここに在った。

馬場先門から丸の内へと戻る。「ライト式」建築物でありながらどこかお高くとまっている明治生命館を眺めながら、近代化著しい丸の内の街並みを拝見。「ネットカフェ」と云うのか、土曜日というのにサラリーマン、OL風の人々がコンピューター画面を真剣に見つめる。

鍛冶橋を抜け京橋、銀座へと向かう。脇道、雑居ビル街、でき



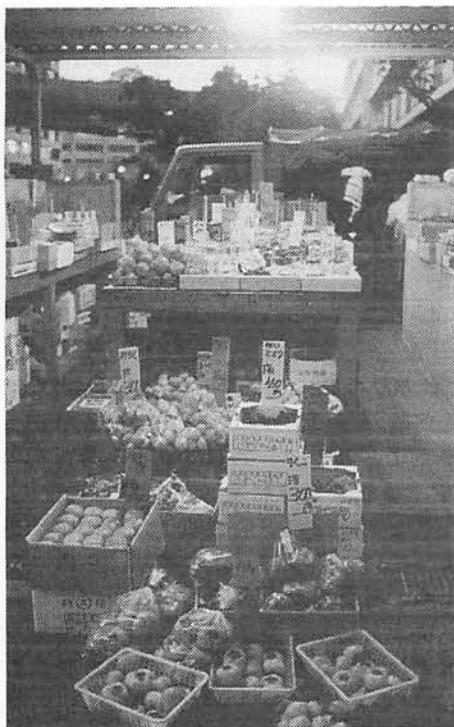
る限り共感可能な街を発見しようとするが、なかなか思った風景には出合えない。錆びれ具合も中途半端で、都市開発の具合も中途半端。かつての銀座は知らねども、どこがこの街の魅力なのか全く不明。皇居詣での御上りさん達が有名にしただけの街なのか、パブルに踊ったサラリーマン達が金に任せて高級にしただけの街なのか、街の歴史は知ってはいても、生活感や執念がない街並みは、やはり駄目である。銀座というのは、イメージ先行の街なのではなからうか。まあ、それも東京ならではである。

歌舞伎座の楽屋裏を覗きながら築地へと向かう。東京湾から隅田川の入口、そして築地市場が広がる川辺の街へ入ると、とたんに辺りは泥臭くなる。その落差はどこか心地良い。そこには人々の普通な暮らしがあり、そこには生活実感からの普通な喜怒哀楽がある。東京と呼ばれる都のすぐ傍にあった。

築地市場に隣接する小売り市場街は、もう昼を過ぎたというのにまだまだ自然な活気。東京の食を担って来た誇りか、店のおじさんやおばさんにもかにも「江戸っ子」。

ところがこの伝統ある築地市場は東京都が何故か移転を決めてしまっている。市場がここに在って何が不都合かと云えば、大型開発が出来ないと云うだけの話である。東京に貢献し、東京に何の迷惑もかけてこなかった誇りある流通街が、ただ、経済原理、都市開発という理由だけで破壊される。こういう街造りしか出来ないからこの都市は卑小なのである。東京で美観と云う場合、固体の美にしか目がいかず、しかも、環境浄化だ、何だと上辺ばかりを綺麗にすれば良いと思ひ込んでいる。固体としての東京駅舎や明治生命館などは文化だ伝統だとか云い大事にするが、機能全体として文化を担ったものには冷淡を決め込む。あっち行け、こっち行けと転々と島





流し。石原知事があれだけ執拗に首都機能を反対するのであれば、何故築地市場を移転させるのか、まったく理解に苦しむ。この人は本当に文化人なのかね？

かつての寄せ場を彷彿させる築地の裏道で古びたラーメン屋を発見。遅い昼飯を食う。味の文化は街と共に在る事を実感。「旨い！」

朝日新聞社の大きな社屋を見上げながら、築地市場を抜け汐留方面に向かう。数年前までは何もなかった空き地には、今や建設中の超高層ビル群が建ち並ぶ。かつてはダンボール集めのおっちゃん達のリヤカーが並び、ちよつとした隠れ集住地だった

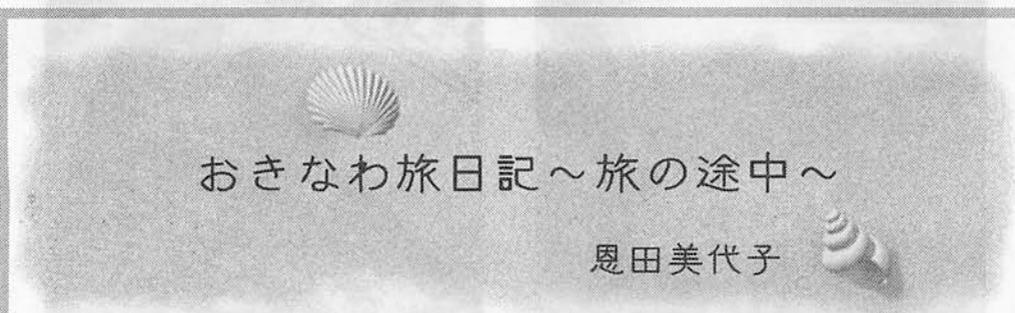
高速下の通りは、役所に追い出された後らしく堆積化した荷物しかそこには残ってはいなかった。そこに生活者がいない場所は廢れるばかりである。浜離宮の水辺には通行人やドライバーが捨てたゴミが浮かび、悪臭を放つ。

そんなゴミを拾おうと水上生活者のおっちゃんがカメラマンと共に奮闘していると聞き、その場におじゃまする。が、着いた時は作業は終了後。一服をしている皆さんの所へお邪魔して、ビールを頂く。

運河に浮かぶ一軒家。ダンボールハウスやテントハウスの寝泊まりはかなりの経験はあるものの、水上に浮かぶ小屋は流石に初めて。屋根の上に登らせてもらいブカブカと心地良い揺れを共にする。目の前には汐留のビル。人を街中から水辺へ、そして、水辺から水上にまで追い立てる東京の姿とは？

秋だけがどこまでも澄んでいた。

(了)



## おきなわ旅日記～旅の途中～

恩田美代子

天気が悪いせいか元気が出ず。このままでは守りの旅になってしまいそうなので、本島を離れ日本最西端の与那国島を目指す。何故か与那国が私を呼んでいる気がして。那覇港を20:00に出航し翌14:30石垣島到着。ここで一泊してから、再び船で与那国へ向おうと。さて、那覇港を発った船で操舵室（運転室）を見学しに行く。船員さんは素朴な人で、いろいろ説明してくれる。航路の安全を願うために金比羅さんが祭られている。海の神様は女性と決まっているそうだ。この時期、中国から台湾へミサイルが発射される事件があったため、石垣島から台湾へ向かうこの船会社は、頭を悩ませているという。昔は日程がゆったりしていて良かったが、今は採算を合わせるためぎっちりスケジュールが組まれ大変なんだ、と言いながら神様に捧げるお酒を飲ませてくれる。コーラ割りがおいしい。

船内は春休み中の学生で大混雑だが、思ったより静かで揺れも少なく、石垣島に到着。なんと、本島とは海の色が全く違う。完璧なエメラルドグリーン。東京に持ち帰りたい！

明日の与那国島への船を確認し、宿探し。全室女・男別の相部屋の安宿を教えてもらい、荷物を置き散策へ。宿のおかみが、相部屋を断わる人は嫌いだと言っていたが、一人になりたい人もいるだろうに。石垣島は、最近減りつつあるという沖縄特有の赤い瓦屋根の家が結構残っていて、それと南国の植物の取り合わせがなんとも面白い。商店を覗くと、里いもを大きくしたようないもがあるので、店のおばちゃんに聞くと「食べな」と1つくれる。紅いもを石で焼いた物だそうで、すごくおいしい。バクバク遠慮なく頂く。更に進むと今度は、何かを洗っているお年寄りの集団があるので訪ねると、文化財に使う貝を洗っている所だと言いつくれる。なんだか、みんな呑気という言葉がぴったり。

宿に戻ると、同室の女性が銭湯を発見したと言うので、早速はいりに行く。なんともレトロなうす暗い銭湯で、先客が説明してくれる。洗面器は番台で貸し出すシステムなので、帰りに戻すとそこに座っていたおじいさんが、1つ1つ丁寧にタオルで拭いている。そして、私が明日与那国島へ船で行く話をすると、テレビの気象情報を見せてくれ「お元気で」と言ってくれる。

宿では、主と宿泊客が共に泡盛（沖縄を代表するお酒♡）片手に、大正琴や三味（沖縄三味線）を演奏しながら歌い出したのでびっくり。でも、だんだん楽しくなり、私も大声と一緒に歌う。その中の一人が、沖縄は人が良くて良い所だと言うけれど、住めば住んだで大変なんだよと言う。確かに、沖縄の歌は悲しい歌が多い。歌っているのは、辛い生活を少しでも楽にするために生まれてきたのかもしれないね。

# 読者のページ



読者のページは「露宿」の自由投稿スペースです。御意見、御感想、編集部への質問など「ろじゅく編集部・読者のページ宛」にお送り下さい。

「露宿」

## 二名の女性執者の魅力

矢田道夫

都立高校の入学試験の国語の問題にかつて作文が15%の配点で出題されたことがある。私もその採点委員となったことが十数回あるが、三人一組で5点ずつ持って点を与えるのだが、平素のイメージする委員の意外な面を知って興味を覚えると共に教育上の評価というものが人によってずいぶん基準が違うことに驚かされるが多かった。

文章の発想・構想がすぐれている作文に対しても誤字・脱字があると減点する委員、別にすぐれた面はないのに欠点がない作文にはよい点を与える委員、誤字・脱字・字面のきたなきなどに減点をしない委員等に大きく分けられると思う。私はその最後のタイプだが同じ文章を見せて、こうも人によって評点に違いのするのにもいつも驚くばかりであった。

寺田寅彦の言うように、書いてあることは正しいのに少しも参考にならない文章と、誤りだらけだが参考になる文章があると私も思う。

いろいろな面での誤りに減点を加える人にはどうも女性が多いように実感している。

教師としての資質について話をひろげればやはり女性は欠点をあげつらいすぎる傾向があるので、男性教師の方が、子供をあずけるのには安心という思いがするのである。

「露宿」には女性の筆者が二名いるようだが両名とも含蓄に富んだ文章で、私は毎号読むのを楽しみにしている次第である。特に新潟からの寄稿者には一度対面してみたいほどで、こんど写真でも送ってもらおうように編集者に希望しておくものである。「はり師いが丸」氏の文章は体験に裏づけられた実に優雅な文章だといつも楽しんで読んでいる。

（前略）

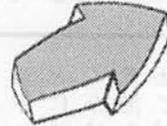
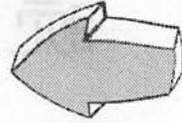
前回のハガキにて、お知らせしましたように、やはり、十月の末頃には結審となり、十一月の初め頃には、下獄ということになりそうです。と申しますのも、運動の時に一緒になる人がやはり上告しているのですが、趣意書の最終提出日から、約一ヶ月くらいで、結審（棄却）の通知が届いたそうです。その例から計算すると、私の場合は九月二五日が最終提出日ですから十月末には、ということになります。一概にはそうとも言えませんが、私の事件のように、何ら争点のない者には、あっさりと言前払いというのが一般的ですね。そんな訳ですの、余り時間的にも余裕がありません（略）。

今までより以上に厳しい世の中になること明白ですが、これからの残りの人生だけでも、少しは納得のいく生き方ができれば、と思っただけです。どうかよろしく願っています。それで、どうやら今回が露宿への投稿（この中からの）の最後ということになります。どうかよろしくお願ひします。ではお元気で。

草々。

谷口悟

# はり師いが丸の 肝心かなめ



はり師いが丸

ペルーの日本大使館占領事件が起きたのは、今から5年前だっただろうか。

「いやー、あのフジモリはひどいことしやるね」大使館を占領したグループを皆殺しにしたフジモリ元大統領に対し、静かに怒りを表していたのは、その彼も住んでいた今はなき新宿西口ダンボール村の一角だった。貧しい者の声を一切聞かず、この事件が起こった背景と向き合わぬまま、「テロは許さない」とだけ叫び、力でことをねじ伏せたこの権力者に、そのほぼ一年前、東京都による「動く歩道」設置を名目としたダンボール村の強制排除で似たような経験をしていた新宿の人たちは、腹の底から怒りを覚えていたに違いない。

「実はわたしもフジモリって言うんですがね」その場の空気の流れを変えようとしたのか、話のオチをつけると藤森さんはいつものやさしい顔で笑った。

今年9月、アメリカで一連の事件が発生し、絶望的な思いに陥ったあと、私はそんなことを思い出していた。当時、巷では大統領が日系人だということだけで、フジモリに親近感を抱き支持する声も多い中、姓が同じであろうと、マスコミが何を書き連ねようと、新宿の藤森さんは自分の目の高さをどこにすえるかは自分の手で選びとっていた。

今回の事件の一月前にあたる8月、日本は原爆記念日で今年も平和を祈った。終戦の日を機に、平和とは何かという議論や、戦争を体験した世代と、そうでない世代の対話の場などが数多く企画され、マスコミはそれをこぞって放映していたが、事件後、それらはマスコミにとって、ただの時節柄のイベントだったと思わざるを得ないような報道が続いた。日々、卑劣だと憤りを覚えた。

これを書いている最中、今朝の朝刊で戦争が始まったことを知る。戦争が始まるや否や、昨日まで報復支持一色だった紙面にも、戦争を懸念する人の声がやっと思載されるようになってくるではないか。人の営みを破壊する暴力に正義などあり得ない。マスコミよ、信念はあるのか。何の上で飯を食っている。

こんな時代に生きていかなければならない子供たちを思うとき、このままではいけないと焦燥を覚えるが、きっと昔、私自身も未来を託された子供のひとりだったからこそ、SとかBとかいう週刊誌がなんと書き立てようと、平和を叫ぶのは今しかないと訴える。

これまで世界中で歌われてきた、憎しみや殺し合いを憂い、平和を願う歌を、これ以上無念をもって歌い継ぐのはもうごめんだ。



ジェフ・リード

次号16号は12月25日発行予定です。  
原稿締め切りは11月30日必着にてお願いします。

【露宿定期購読の御案内】

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送料込み）

定期購読4回分 2500円（郵送料込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにて注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

編集後記

「空爆の ニュース夜更かし 寝不足の朝  
日常戻る 変な感じよ」

空気が透き通り、月夜が嬉しい秋ですが、ラジオからは爆撃の音が聞こえてきます。朝目覚めれば、テレビではアナウンサーが「次の作戦は、、、」などと伝えていきます。通勤電車で揺られて、慌ただしい日常に戻っていく私。こんなじゃだめでしょ！皆さんはどんな思いで連日のニュースを聞いているのでしょうか。秋深まる頃、複雑な心のまま時が過ぎていく。ではまた！

露宿ペン倶楽部短信

秋が深まってきました。冬の足音というのは嫌なものですが、短い秋を楽しみながら次の季節に備えていきましょう。

福岡の拘置所から投稿を続けてくれた谷口さんは下獄のため最後の原稿になります。無事再会の日を迎えたいものです。富士森さん、中津川さん、田代さんも戻って来ました。「露宿」が仲間のホームになれば良いなと思うこの頃。

露宿バックナンバー

在庫一掃セール好評継続中！

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号、13号、14号の在庫があります（2号、4号は売切です）。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。バックナンバーに限り1冊300円（3冊以上は送料無料）での一掃セールをしています。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。（尚、在庫が切れた場合はご容赦下さい）。

# Rojuku

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくられました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したいと思い、利益が出れば炊き出しのお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先  
郵便振替口座  
00160-6-190947  
「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

- ◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557
- ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010
- ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666
- ◆新宿中央公園ポケットパーク (毎日曜午後6時から8時まで) TEL090-3818-3450
- ◆城西教会 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL03-3466-0445
- ◆山谷労働者福祉会館 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073
- ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870
- ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第15号 2001年10月25日発行 (隔月刊)  
主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋 1-14-5-13  
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)  
Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/  
郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」  
販売協力・新宿連絡会、露宿ペン倶楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー